

令和5年10月17日（火）

研究の醍醐味（だいごみ）は好奇心

地球温暖化研究に対する功績（こうせき）が認められ、2021年にノーベル物理学賞を受賞したのは真鍋淑郎（まなべ しゅくろう）さんです。真鍋さんは「気候物理学というテーマで受賞できて非常に光栄」であるとおっしゃっていました。さらには、英語で「好奇心：curiosity（キュリアシティ）」という単語を繰り返し強調されました。

真鍋さんは大気中の二酸化炭素（CO₂）濃度が気候に及ぼす影響を根拠を持って初めて明らかにした研究者です。当時、アメリカで普及し始めたコンピューターを使って、“世界で一番スーパーコンピューターを使った男”と異名が付くほど気象を予測する研究に没頭しました。そして、大気中の二酸化炭素濃度の上昇が地表の温度上昇につながることを実証しました。地球温暖化の原因を科学的に示した真鍋さんの研究は、現在、世界的に進められているSDGs（持続可能な開発目標）における脱炭素の動きにも大きな影響を与えています。

自然災害の多い日本で生まれ育った真鍋さんは、子どもの頃から気候に強い関心をもっていらしたようです。周りからは「好奇心の塊」「研究を楽しむ人」などと評価されていました。

真鍋淑郎さんの前のノーベル物理学賞受賞の日本人は2015年度受賞された東京大学の梶田隆章（かじた たかあき）卓越教授です。ニュートリノの研究で受賞されました。

その1年前、2014年度ノーベル物理学賞を受賞した日本人は、鹿児島県出身の赤崎勇（あかさき いさむ）さんです。赤崎さんは天野（あまの）さん中村（なかむら）さんらと共に受賞されました。赤崎さんらは青色LED発光ダイオードの開発に尽力されました。

喜入中の皆さんも、どの教科においても、授業中は興味を持って「好奇心」を高めた状態で臨みましょう。そして、いつか本校からノーベル賞を受賞するような人物が出ることを期待しています。